

真鍋淑郎氏ノーベル賞



真鍋淑郎氏（まなべ・しゆろう）は、1931年9月21日、愛媛県新村（現四国中央市）生まれ。53年東京大理学部卒。58年東大名古屋大特別招聘（じゆう）され、48年イタリア生まれ。73歳。70年にローマ大で博士号取得。現在、同大教授。博士号取得後、米海洋気象局で勤務。88年プリンストン大客員教授兼任。97年帰国し科学技術庁（当時）地球温暖化予測研究システムの開発に携わった。90歳。（共同）

物理学賞

「ストックホルム＝共同」ズクヨーテンの王立科学アカデミーは五日、二〇一一年のノーベル物理学賞を、真鍋淑郎、米プリンストン大学教授（60）＝愛媛県出身、米国籍＝の三氏に授与すると発表した。真鍋氏は、大気の対流などを考慮した候潮モデルを世界で初めて考案。二酸化炭素（CO₂）の増加が気温に影響する」と示し、地球温暖化の予測に関する先駆的な研究を続けた業績が高く評価された。

（関連）核心（同）論説（同）

授賞理由は「地球の気候－地球科学が自然科学分野のうち地球温暖化の予測に関する物理モデルへの貢献」。極めてまれだ。真鍋氏は米

ノーベル物理学賞の受賞が決まり、米東部ニュージャージー州の自宅で取材に応じる真鍋淑郎氏。5日（AP・共同）

東部ニュージャージー州フリンス頓の邸宅で記者団に「気候物理学」といっておられる。クラウス・ハッセルマン（左）と、ヨーロッパの気候予測の成績者たる吉野彰（右）が、ノーベル賞受賞式に出席する。



クラウス・ハッセルマン

クラウス・ハッセルマン氏（まなべ・しゆろう）は、1931年、ドイツ生まれ。89歳。57年にドイツの自然科学研究分野で地球科学がノーベル賞を受賞する。ノーベル賞を受賞するには、一九九五年にオゾン層の生成や破壊の仕組みを解明した研究者の例があるが、極めてまれだ。地球温暖化が進行して危機感が高まる中、「脱炭素」を目指す世界を後押しする強いメッセージとなる。

短期的な気象変化を予測

真鍋淑郎氏（まなべ・しゆろう）は、1931年9月21日、愛媛県新村（現四国中央市）生まれ。53年東京大理学部卒。58年東大名古屋大特別招聘（じゆう）され、48年イタリア生まれ。73歳。70年にローマ大で博士号取得。現在、同大教授。博士号取得後、米海洋気象局で勤務。88年プリンストン大客員教授兼任。97年帰国し科学技術庁（当時）地球温暖化予測研究システムの開発に携わった。90歳。（共同）

A.P.・共同
ショルジョ・バーリング氏（まなべ・しゆろう）は、1931年9月21日、愛媛県新村（現四国中央市）生まれ。53年東京大理学部卒。58年東大名古屋大特別招聘（じゆう）され、48年イタリア生まれ。73歳。70年にローマ大で博士号取得。現在、同大教授。博士号取得後、米海洋気象局で勤務。88年プリンストン大客員教授兼任。97年帰国し科学技術庁（当時）地球温暖化予測研究システムの開発に携わった。90歳。（共同）

温暖化予測先駆け

京大卒業教授（60）以来十二人目。

真鍋氏は、一九五〇年代から気象に関する研究に従事。六〇年代には、太陽から地熱に属いた熱と、大気

の循環がどのように相互作用するかを分析するモデルを開発。太陽熱で暖められた空気が水蒸気を伴って上昇、温室効果ガスとして機能することを示した。ま

脱炭素へのメッセージ

解説

研究で成績を上げた真鍋淑郎氏が今年のノーベル物理学賞に決まった。

自然科学分野で地球科学がノーベル賞を受賞するには、一九九五年にオゾン層の生成や破壊の仕組みを解明した研究者の例があるが、極めてまれだ。

ノーベル賞を受賞するには、一九九五年にオゾン層の生成や破壊の仕組みを解明した研究者の例があるが、極めてまれだ。地球温暖化が進行して危機感が高まる中、「脱炭素」を目指す世界を後押しする強いメッセージとなる。

短期的な気象変化を予測

する天気予報に対し、気候変動モデルは大気や海洋の影響を考慮して長期的な変化を予測する分野で、複雑な計算が必要になる。真鍋氏は、コンピューターを使用した物理計算により、世界に先駆けて気候変動モデルを開発した。温暖化は数十年前から指摘されてきたが、多くの人に効果的な対策を打つてもらつたためにも、

その後多くの研究者が参入してより精密な計算が可能となり、IPCC報告書も改定を重ねた。また、米国の気候予測は現在、各田が二酸化炭素（CO₂）の排出削減策や温暖化に適応する方策を考える際の基盤となっている。真鍋氏は、脱炭素に向かう世界の動きの中で第一歩を切り開いたといえる。（共同、深谷慶子）